

## 2019年 KARTHシリーズ 気象災害を学ぶ基礎講座

日本列島は地殻・地形的にみても様々な自然災害に頻繁に見舞われる宿命にあると言われていいます。「地震災害」と共に日本人にとって避けることのできない「気象災害」（水害、強風、台風、土砂災害等）が「地震災害」と大きく異なる点は、そのほとんどが「予知可能」であることですが、予知ができて事前の備えがなかなか進まない例も見られます。

本講座では、気象学専門の佐橋 謙先生（岡山大学名誉教授）を講師にお迎えして、被害を軽減するために気象災害に対してどのように向き合ったらよいかについて学び考えます。

佐橋先生は、京都市上京区の西陣小学校の校舎が倒壊して41名の子供の命を奪った1934年9月の室戸台風襲来を身近に経験され、その後、京都大学理学部地球物理学科および同大学院で気象学を学び、各種の気象災害をアメリカ、オーストラリア、中国、インドネシアなどで実際に体験し、その恐ろしさを学んでこられました。先生のさまざまな体験を通して、気象災害から身を護るための知恵をみなさまと一緒に考えていきたいと思っております。是非お気軽にご参加ください。

### ■第3回 4月21日（日）午後1時半～4時半頃（開場 午後1時）、終了後懇親会「ヒートアイランド」

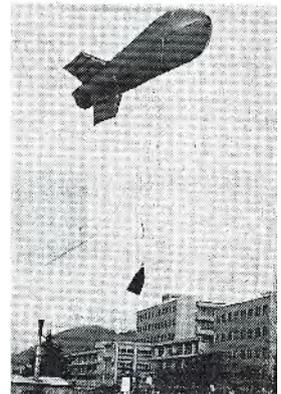
講師 佐橋 謙（岡山大学名誉教授、シリーズ共通）

直訳すれば「熱の島」ということになるでしょうが、都会の一部に、郊外と比べ、より高温であるという地域が発生することがあり、その高温域のことを「ヒートアイランド」と呼んでいます。

暴風とか、大雨のような荒々しい災害とは違いますが、ここでは筆者が実際に観測した岡山市を例にとってその現象の説明と、その現象が生活環境に及ぼす影響、例えば、有害物質の都市上空での滞留のように、「大気汚染」という生活者に障害を与えることが心配されるような観点からも、考察したいと思っています。

#### プログラム予定

講義の後に休憩、質疑応答、意見交換



佐橋岡山大教授が調査した岡山大上空のNO<sub>x</sub>の観測（毎日新聞、1992）

#### ■講師 佐橋 謙 先生のプロフィール

岡山大学名誉教授

◇学歴 京都大学理学部地球物理学科気象学専攻大学院博士課程単位習得退学

◇職歴 岡山大学教育学部理科教室物理学担当講師・助教授・教授（のち、大学院も担当）

◇定年退職後の職歴 岡山理科大学（非常勤）、神戸福祉大学



#### ■講義の中の主な用語解説例

◇台 風： 北西太平洋に存在する熱帯低気圧のうち、低気圧域内の最大風速がおおよそ17m/s以上のもの。

◇不連続線： 広義には、温度、湿度、風向、風速などが急に変化するところを結んだ線で、前線（寒気団と暖気団との境界線）と同義として用いられる場合もある。特に前線と区別する場合は、温度の変化が小さいが湿度や風の変化が大きいのに対して用いる。

◇低 気 圧： 高さの同じ面で、周囲よりも気圧が低く、閉じた等圧線で囲まれたところ。

◇冷 気 流： 山地斜面上の空気が放射冷却により冷えて重くなり下方に流れ出す空気の流れ。

◇微 気 候： 人間が住む領域である地面近くの気層（大気層）の気候。地表面の状態や植物群落などの影響を受けて、細かい気象の差が生じる。

■会 場：西陣ヒコバエノ家(防火・耐震改修町家、京都市上京区<sup>カミタチウリドオリ</sup>上立売通浄福寺西入姥ヶ東西町 632)  
\*ヒコバエ（藁）とは、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽のこと。

■参加費：1000 円（会員 800 円、学生無料）、懇親会 1000 円（学生無料）

■参加方法：お名前、所属、連絡先の電話・FAX番号、メールアドレス、懇親会参加の有無を明記の上、4月17日（水）までにメールまたはFAX、電話でお申込み下さい。

■参加申込・問合せ先：NPO 法人 関西木造住文化研究会（略称 KARTH：カース）  
TEL 075-411-2730 悠計画研究所内、FAX 075-411-2725  
E-mail [info@karth.sakura.ne.jp](mailto:info@karth.sakura.ne.jp) <http://karth.org/>  
住 所 上記会場と同じ

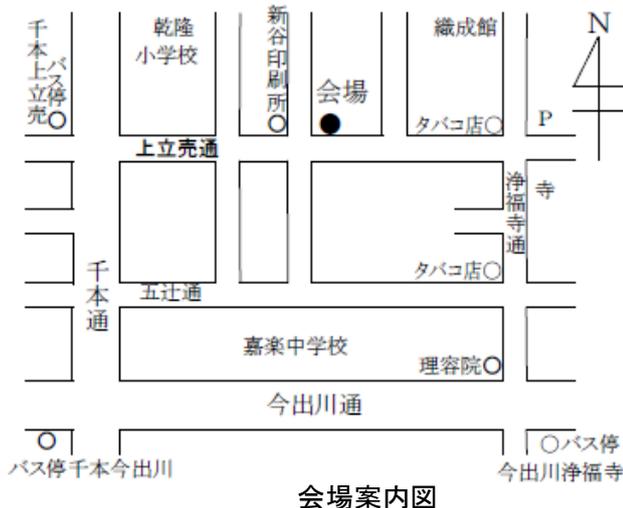
### ■会場の交通アクセス

□バス停「今出川浄福寺」または「千本今出川」または「千本上立売」より徒歩約5分

□JR 京都駅より（所要時間 約40分、角地）

①地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3番出口、烏丸今出川交差点の今出川通の東側のバス停から西行きバス乗車後、「今出川浄福寺」下車

②市バス利用：A3の206番に乗車後、バス停「千本上立売」下車、または、B2の50番、101番に乗車後、バス停「千本今出川」下車



約170前の江戸時代後期に建てられ、2000年に防火・耐震改修。角地、お地蔵さんあり、東隣は青空駐車場

トオリニワはLDとして活用  
(写真は2000年時点)



### これまで開催した基礎講座

■第1回 1月20日（日）午後1時半～4時頃（開場 午後1時）

「気象学事始め 今、地球規模で空で何が起きているのか」

皆さんは一日のうち何回くらい、空を見上げますか？気象学は「空で何が起きているのか？」などを調べる学問です。気象現象とは何か？なぜそれが地球上に発生するのか？地球規模で今何が起きているかなどについて、大気鉛直構造・地球全体の水平分布・地球上の大循環などを気象学的観点から概説いたします。

■第2回 2月17日（日）午後1時半～4時頃（開場 午後1時）

「日本の気象災害を誘発する気象現象の発生原因と予報の読み方」

様々な気象災害のほとんどは予知が可能であり、事前に備えることによって被害を軽減できます。しかし、公表される予知の結果は、新聞とテレビではその表現が異なり、天気予報の表現も難解な表現（例えば、「一時雨」と「時々雨」はどう違うのかなど）が多いのが現状です。それらの違いについて詳しく述べる予定です。日本ではなぜ四季があるのか？また、悪天候をもたらす不連続線、低気圧、台風、竜巻などの発生原因や移動を含む様々な気象災害の予報の読み方、活かし方を概説いたします。